



## 平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月31日

上場取引所 東

上場会社名 日清食品ホールディングス株式会社

コード番号 2897 URL <http://www.nissinfoods-holdings.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長・CEO (氏名) 安藤 宏基

問合せ先責任者 (役職名) 取締役・CFO (氏名) 横山 之雄

TEL 03-3205-5111

四半期報告書提出予定日 平成25年11月11日

配当支払開始予定日

平成25年11月26日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	193,258	8.3	9,968	12.0	13,586	22.1	8,544	37.7
25年3月期第2四半期	178,398	△0.9	8,897	△26.1	11,124	△15.8	6,203	△41.6

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 18,173百万円 (156.1%) 25年3月期第2四半期 7,095百万円 (△45.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	77.52	77.23
25年3月期第2四半期	56.30	56.13

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	452,220	327,723	70.3
25年3月期	446,132	315,026	68.7

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 317,989百万円 25年3月期 306,581百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	40.00	—	35.00	75.00
26年3月期	—	40.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	35.00	75.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	410,000	7.1	25,500	6.5	30,000	△3.1	19,200	1.8	174.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 1社 (社名) Nissin Foods Vietnam Co.,Ltd. 、除外 1社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有  
(注) 詳細は、【添付資料】P. 4(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 有  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、【添付資料】P. 4(会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示)をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	117,463,685 株	25年3月期	117,463,685 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	7,243,891 株	25年3月期	7,271,935 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	110,212,012 株	25年3月期2Q	110,186,592 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は完了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 3(連結業績予想などの将来予測情報に関する説明)をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の我が国経済は、安倍政権の経済政策がもたらしたプラス効果が実態経済に徐々に波及し、輸出と個人消費の後押しをうけ回復傾向が持続しております。一方で円安による輸入価格の上昇や海外景気の不安感など、依然として経済環境の先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、消費者の食に対する安全・安心志向が続き、また、生活防衛意識や節約志向には根強いものがある一方で円安による原材料価格の上昇の影響もあり、これらへの対応等が求められております。

このような状況の中、当社グループは「“EARTH FOOD CREATOR”～人々を『食』の楽しみや喜びで満たすことで社会や地球に貢献する～」という企業理念の下、グループの強みである技術イノベーション力とマーケティング力を活かした商品開発を行い、一層のブランド価値向上に努めてまいりました。また、2014年3月期からの3カ年を対象とする「中期経営計画2015」を掲げ、成長性の高い新興国を中心にグローバル戦略を推進するとともに、グループ横断的なコスト削減にも注力し、さまざまな経営環境に即応できる強固な企業基盤の構築に取り組んでおります。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比8.3%増の1,932億58百万円となりました。利益面においては、営業利益は、前年同期比12.0%増の99億68百万円、経常利益は、前年同期比22.1%増の135億86百万円となりました。また、当四半期純利益は、前年同期比37.7%増の85億44百万円となりました。

<連結業績>

(単位：百万円)

区分	平成25年3月期	平成26年3月期	対前年同期比	
	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	金額	%
売上高	178,398	193,258	+14,859	+8.3
営業利益	8,897	9,968	+1,071	+12.0
経常利益	11,124	13,586	+2,461	+22.1
四半期純利益	6,203	8,544	+2,340	+37.7

報告セグメント別の業績の概況は、以下の通りであります。

#### ①日清食品

日清食品㈱の販売状況について、袋めん類では、カップめん で培った最高峰のめん技術を応用し、“まるで、生めん。”のような食感とおいしさを再現した「日清ラ王」群が、引き続き売上増に大きく貢献しました。8月に発売した「日清ラ王 塩」はじっくりと炊き出した鶏のむね肉をベースに、魚介、昆布、香味野菜などの旨みを加えた、上品で味わい深い塩味スープが好評を博し、好調に推移しております。

カップめん類では、袋めんとともにキャンペーンを展開している「日清チキンラーメンどんぶり」群や三層太ストレート製法のもっちり太くまっすぐなうどんが好評の「日清のどん兵衛」群が売上を伸ばし、堅調に推移しました。

さらに、9月にはインスタントラーメンと「日清のごはんシリーズ」で培った技術を応用して「日清カップカレーライス」を発売いたしました。水を入れて電子レンジでチンするだけの「簡便調理」が好評を博し、順調なスタートとなりました。

また、1958年に販売を開始した世界初のインスタントラーメン「チキンラーメン」が、今年で発売55周年（1958年8月25日発売）を迎えました。さらに、「日清焼そば」が50周年（1963年7月2日発売）、「出前一丁」が45周年（1968年2月12日発売）を迎えており、ロングセラー袋めんへの長年のご愛顧に応え、さまざまなキャンペーンやイベントを展開し、販売拡大に取り組んでまいりました。

この結果、報告セグメントにおける日清食品の売上高は前年同期比5.0%増の932億55百万円、セグメント利益は前年同期比11.6%増の94億43百万円となりました。

#### ②明星食品

明星食品㈱の販売状況は、競合他社との激しい販売競争が続き、前年を割り込む結果となりました。袋めん類では、当第2四半期に全国展開を完了した「明星 究麺」の売上寄与により前期実績を上回ることができました。一方、「明星一平ちゃん 夜店の焼そば」シリーズが引き続き堅調に推移し、また、将来の主力商品に育てるため市場定着化に取り組んだ「明星 Quick 1」が売上に寄与したものの、他商品の落ち込みをカバーするには至らず売上減となりました。

この結果、報告セグメントにおける明星食品の売上高は前年同期比1.5%減の187億19百万円、セグメント利益は前年同期比9.1%減の5億20百万円となりました。

### ③低温事業

日清食品チルド(株)の販売状況は、チルドめん市場の需要停滞が継続し全体として売上減となりました。発売30周年を迎えた「中華風涼麺」を中心とした冷しジャンルや主カブランドの「つけ麺の達人」の売上が好調に推移した一方で、焼そば、ラーメン等の売上が伸び悩みました。

日清食品冷凍(株)の販売状況は、「冷凍 日清スパ王プレミアム」シリーズが消費者の皆様へ受け入れられ引き続き好調に推移し、さらに、食べごたえ十分の「冷凍 日清スパ王プレミアムBIG」シリーズが好評を博し、売上を伸ばしました。ラーメンやうどん類は前年に比べてやや落ち込む結果となりましたが、スバゲティ類をはじめ、焼そば類、たこ焼やお好み焼などのスナック類が伸長、また前年度に発売した「冷凍 日清カップセルスタイル カップヌードル おにぎり」が定着し、8月に発売した「冷凍 日清カップセルスタイル チキンラーメン おにぎり」も寄与し全体としては売上増となりました。

この結果、報告セグメントにおける低温事業の売上高は前年同期比3.8%増の270億1百万円、セグメント利益は前年同期比51.6%増の4億27百万円となりました。

### ④米州地域

米州地域は、価格競争の影響を受けにくい企業体質への改善を目指し、高付加価値商品の強化に取り組みました。将来の主軸商品に育てるべく販売拡大を図った「BIG CUP NOODLES」やロングセラー商品の「Top Ramen」及び「CUP NOODLES」が堅調な売上となりました。

この結果、報告セグメントにおける米州地域の業績は円安効果もあり、売上高は前年同期比22.0%増の151億17百万円、セグメント利益は7.1%増の89百万円となりました。

### ⑤中国地域

中国地域は、中間所得者層の増加が続く中国大陸市場での営業販売網・営業人員拡大とブランド戦略が奏功し、増収増益となりました。特にカップヌードルは、「開杯楽」（華東地区）と「合味道」（華南地区）に分けていたブランドを「合味道」に統一し、ブランドイメージの一本化を図るなど、積極的な販売戦略を推進したことにより売上を大きく伸ばしております。

この結果、報告セグメントにおける中国地域の業績は円安効果もあり、売上高は前年同期比39.5%増の141億50百万円、セグメント利益は前年同期比16.3%増の13億72百万円となりました。

また、報告セグメントに含まれない事業セグメントについて、国内の菓子事業、飲料事業、外食事業並びに欧州地域、アジア地域を含んだ「その他」の売上高は前年同期比13.3%増の250億13百万円となり、セグメント損益は対前年同期比6億1百万円減少の39百万円の損失となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の当社グループの総資産は、前期末に比べ60億88百万円増加し、4,522億20百万円となりました。当第2四半期連結会計期間末の資産、負債及び純資産の状況は次の通りであります。

資産につきましては、主に現金及び預金が50億61百万円増加したこと及び有形固定資産が76億50百万円増加したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ66億8百万円減少し、1,244億96百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が56億25百万円減少したこと及び未払法人税等が24億71百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ126億96百万円増加し、3,277億23百万円となりました。これは主に利益剰余金が20億38百万円増加したこと及び為替換算調整勘定が79億82百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は70.3%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成25年4月30日の「平成25年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、Nissin Foods Vietnam Co., Ltd. は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### 会計方針の変更

##### （退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号。以下、「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号）が平成25年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から適用できることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間よりこれらの会計基準等を適用し、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異を退職給付に係る負債に計上しております。また、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上したことに伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。また、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首のその他の包括利益累計額が255百万円増加し、利益剰余金が2,094百万円減少しております。なお、これによる当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	64,351	69,412
受取手形及び売掛金	47,072	45,034
有価証券	6,065	9,423
商品及び製品	10,022	10,269
原材料及び貯蔵品	9,329	10,291
その他	10,114	12,687
貸倒引当金	△280	△291
流動資産合計	146,674	156,826
固定資産		
有形固定資産		
土地	52,429	52,413
その他(純額)	81,358	89,024
有形固定資産合計	133,787	141,438
無形固定資産		
のれん	2,619	2,213
その他	2,057	3,639
無形固定資産合計	4,677	5,853
投資その他の資産		
投資有価証券	138,571	125,663
その他	22,762	22,775
貸倒引当金	△340	△336
投資その他の資産合計	160,992	148,102
固定資産合計	299,457	295,393
資産合計	446,132	452,220

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	43,652	38,027
短期借入金	1,342	2,540
未払金	24,012	21,875
未払法人税等	7,143	4,671
その他	21,658	21,891
流動負債合計	97,809	89,006
固定負債		
長期借入金	7,612	8,197
退職給付引当金	7,496	—
退職給付に係る負債	—	8,899
その他	18,186	18,393
固定負債合計	33,296	35,490
負債合計	131,105	124,496
純資産の部		
株主資本		
資本金	25,122	25,122
資本剰余金	48,416	48,416
利益剰余金	257,067	259,105
自己株式	△21,798	△21,715
株主資本合計	308,808	310,929
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,329	13,505
土地再評価差額金	△6,619	△6,619
為替換算調整勘定	△7,936	45
退職給付に係る調整累計額	—	127
その他の包括利益累計額合計	△2,227	7,059
新株予約権	899	1,186
少数株主持分	7,546	8,548
純資産合計	315,026	327,723
負債純資産合計	446,132	452,220



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	178,398	193,258
売上原価	100,300	108,450
売上総利益	78,098	84,807
販売費及び一般管理費	69,201	74,838
営業利益	8,897	9,968
営業外収益		
受取利息	422	550
受取配当金	1,031	1,094
有価証券売却益	—	412
持分法による投資利益	887	1,213
為替差益	—	274
その他	336	278
営業外収益合計	2,678	3,821
営業外費用		
支払利息	106	128
為替差損	258	—
その他	85	75
営業外費用合計	450	204
経常利益	11,124	13,586
特別利益		
固定資産売却益	170	131
投資有価証券売却益	359	398
受取保険金	152	—
その他	—	0
特別利益合計	682	531
特別損失		
固定資産廃棄損	176	437
災害による損失	126	45
その他	954	130
特別損失合計	1,256	612
税金等調整前四半期純利益	10,550	13,504
法人税等	4,267	4,852
少数株主損益調整前四半期純利益	6,282	8,652
少数株主利益	78	108
四半期純利益	6,203	8,544

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	6,282	8,652
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△359	1,177
為替換算調整勘定	347	6,064
退職給付に係る調整額	—	127
持分法適用会社に対する持分相当額	825	2,150
その他の包括利益合計	813	9,521
四半期包括利益	7,095	18,173
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,005	17,612
少数株主に係る四半期包括利益	90	560

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日清食品	明星食品	低温事業	米州地域	中国地域	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	88,783	18,996	26,004	12,394	10,143	156,323	22,075	178,398	—	178,398
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	97	564	256	—	43	962	8,002	8,964	△8,964	—
計	88,881	19,561	26,260	12,394	10,186	157,285	30,077	187,363	△8,964	178,398
セグメント利益	8,464	572	282	83	1,180	10,583	561	11,145	△2,248	8,897

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内の菓子事業、飲料事業、外食事業等並びに欧州地域、アジア地域を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,248百万円には、退職給付関係費用△365百万円、のれんの償却額△375百万円、セグメント間取引消去等15百万円、グループ関連費用△1,523百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日清食品	明星食品	低温事業	米州地域	中国地域	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	93,255	18,719	27,001	15,117	14,150	168,244	25,013	193,258	—	193,258
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,209	629	594	—	56	2,489	8,179	10,668	△10,668	—
計	94,465	19,348	27,595	15,117	14,206	170,734	33,192	203,926	△10,668	193,258
セグメント利益 又は損失(△)	9,443	520	427	89	1,372	11,853	△39	11,814	△1,845	9,968

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内の菓子事業、飲料事業、外食事業等並びに欧州地域、アジア地域を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,845百万円には、退職給付関係費用197百万円、のれんの償却額△456百万円、セグメント間取引消去等76百万円、グループ関連費用△1,664百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。